

第2回気仙沼市東日本大震災遺構検討会議について（開催報告）

1 開催概要

日 時：平成26年11月19日（水）午後3時～午後5時

場 所：階上公民館 研修室

出席委員：8名（委員12名中）

※当日は会議前に旧気仙沼向洋高校の現地視察を実施

2 説明内容

(1) 第1回会議の論点の整理

(2) 保存整備計画案について

・被災建造物の現地調査状況（中間報告）

(3) 公開活用計画について

・旧気仙沼向洋高校に期待されるもの

・公開活用計画の基本的な考え方

・理念と方針、求められる機能

・旧気仙沼向洋高校の位置付けの検討

3 意見交換

主なテーマ：旧向洋高校で遺したい部分、公開活用の方法について

〔委員から出された主な意見〕

- 南校舎4Fの壁面、3Fの車、北校舎4Fの黒板、渡り廊下の積み重なった車、体育館の惨状など、津波の恐怖を感じる部分を遺す必要がある。
市の減災・防災拠点となるよう、他の震災伝承関連施設や遺構候補物とも連携し、市内他地域の人々の意識も取り込める施設とされたい。
- 震災の伝承を未来永劫語り繋いでいく施設にするなど提示内容には同意する。あとは提示されている機能の具体化を示してほしい。
- 階上地区が受けた津波と他の地区との差異がわかる遺し方をされたい。それに当たっては、当時の向洋高校の先生や生徒など関係者からの意見聴取が必要。
活用については、学校での防災教育施設としての活用定着には時間を要するため、同趣旨だけでなく食・地場産品など地域の魅力を知る場とされたい。
- 南校舎4Fの戸棚は津波の高さを示す上で貴重である。昨年視察時より変わってきており、貴重な部分は早急に保存の手立てを講じる必要がある。
活用については、地域を巻き込んで、地域の人も集まる場所とされたい。
- 南校舎の屋上から見た風景は特異であり、そこから体験者の話を聞ければ震災当時の状況を知る上で有効であるほか、過去に塩田があったことも示せる場となる。他地域との繋がりだけでなく時間軸での繋がりも考えたい。
- 南校舎については現在の姿をそのまま遺すべきと考えている。見学上の安全性の担保のほか、津波が来る場所でもあることから、入館者・見学者の避難体制の検討も必要である。